



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	デンソー湖西製作所 食堂棟建設工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④外壁:押出成形セメント板:60年 ④壁:2重PBT-12+EP塗装:20年、天井:岩綿吸音板:30年 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦建物の外皮性能 BPI 非住宅:0.72 ⑧ハイサイドライトを設置している。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪省水型機器を使用している。 ⑫①床:ビニル床タイル、⑫断熱材:押出法ポリスチレンフォーム ⑫乾式で構成し、躯体と主要仕上げ材の分別が可能である。 ⑬断熱材にはOPD.0かつGWP:1以下を使用している。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲階高:4.580 ⑲壁長さ比率:0.070 ■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上			
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉑生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ㉔ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	デンソー湖西製作所 食堂棟建設工	階数	地上1F
建設地	静岡県湖西市梅田字ムメタ390-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	368 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2020年4月10日
敷地面積	270,593 m ²	作成者	犬飼 佳明
建築面積	3,415 m ²	確認日	2020年4月13日
延床面積	3,363 m ²	確認者	大塚 俊一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	96%
③上記+②以外の	96%
④上記+	96%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
音環境: 2.2	機能性: 2.5	生物環境: 2.0
温熱環境: 3.0	耐用性: 3.1	まちなみ: 3.0
光・視環境: 2.9	対応性: 3.6	地域性: 3.0
空気質環境: 3.5		

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮の: 5.0	水資源: 3.4	地球温暖化: 3.1
自然エネ: 4.0	非再生材料の: 3.2	地域環境: 2.5
設備インステ: 2.3	汚染物質: 3.7	周辺環境: 3.0
効率的: 3.0		

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
広大な工場敷地内における事務用途棟の1階食堂部分の増築であり、敷地内においては緑を積極的に取り入れ、隣棟間を大きく取ることでより圧迫感を与えないよう地域(場内)環境に配慮している。ハイサイドライトからの自然エネルギーを高い外皮性能により取り入れることで、労働環境下における憩いの場としての居心地の良さを配慮しながら長期に維持・利用できる建物として計画している。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
空気質環境の取り組みとして館内全体を禁煙とし、労働環境下における憩いの場としての居心地の良さについて配慮している。	天井高を高くすることにより室内空間にゆとりがあり、外壁、内装仕上げ材共に、耐用年数の長い部材を使用している。	場内には緑を積極的に取り入れ、外部テラスを建物に隣接して設けることによって開放的な内部空間に繋がり、地域環境にも配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮への熱負荷抑制において高い水準を確保し、ハイサイドライトを設置して自然エネルギーの利用も積極的に取り入れている。	非再生資源の使用量削減として部材の再利用可能性向上に取り組み、環境への配慮としては、ノンフロンかつ地球温暖化係数の低い発泡断熱材を使用している。	交通負荷抑制として場内隣接地を含め適切な量の駐車スペースを確保し、場内への出入り口の位置や形状も適切に配置して、敷地外への影響を配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される